令和7年度 第1回乳がん検診運営会議 議事録

1 開催日時 令和7年5月27日（火） 午後1時50分から午後3時00分まで

2 開催場所 総合保健医療センター3階 多目的室

3 出席者

【委員】	くまい医院	隈井知之
	和田クリニック	和田映子
	森永産婦人科	森永康文
	医師	小川弘俊
	医師	伊藤朝子
【オブザーバー】	豊田厚生病院	丹羽多恵
【事務局】	健康増進課長	兒島康万
	同課長補佐	川口良子
	同課主査	山中寿香
	同課主任	梶田孝太郎
	同課保健師	渡辺愛香
	同課保健師	鈴木友有加
	春日井市健康管理事業団 主幹	高三英治
	春日井市健康管理事業団 主任（技師）	金井沙耶香
【傍聴者】	なし	

4 議題

- (1) 令和7年度乳がん検診研修会の実施について
- (2) 乳がん検診実施状況調査の結果について
- (3) 乳がん検診実施基準の策定に関する方向性（素案）について

5 会議資料

- 資料1 春日井市乳がん検診運営会議委員名簿
- 資料2 春日井市乳がん検診運営会議設置要綱
- 資料3 乳がん検診研修会の実施について
- 資料4-1 乳がん検診実施状況調査の結果について
- 資料4-2 乳がん検診実施状況調査対象医療機関等一覧
- 資料4-3 乳がん検診実施状況調査票
- 資料5 乳がん検診実施基準の策定に関する方向性（素案）について

【事務局 川口課長補佐】

資料 1、2 に基づき説明

本会議の会長を委員の互選により決定したいと思います。推薦はありますか。

【和田医師】

私からの推薦ですが、隈井医師にお願いしてはいかがですか。

(全員異議なし)

【川口課長補佐】

会長は隈井医師に決定したいと思います。

【隈井会長】

ここからは、私が議事を進行いたします。

議題(1) 令和 7 年度乳がん検診研修会の実施について

【隈井会長】

議題(1)令和 7 年度乳がん検診研修会の実施について、事務局から説明をお願いします。

【事務局 川口課長補佐】

資料 3 に基づき説明

研修会講師について、丹羽医師を紹介し、研修会の概要の説明を依頼

【オブザーバー 丹羽医師】

研修会の概要及び国の対策型検診等について、スライドを用いて説明

【隈井会長】

議題(1)について、事務局及び丹羽先生から説明がありましたが、何か御意見や御質問等がありますか。

マンモグラフィ検査と超音波検査を同日に実施するのか、別の日に実施するのか、どのように実施するとよいでしょうか。

【オブザーバー 丹羽医師】

同じ施設で実施する場合は、同日で良いと思います。別の施設で実施する場合は、マンモグラフィ検査を実施して、後日、その画像結果を見ながら超音波検査を行うのがよいと思います。

【隈井会長】

別の施設で別の日に実施する場合は、後日、超音波検査を実施する医師が総合判定を行うということでしょうか。

【オブザーバー 丹羽医師】

総合判定をする医師は、マンモグラフィ検査及び超音波検査両方について、日本乳がん検診精度管理中央機構の資格を持った医師が望ましいですが、実際には医師の確保等が難しいと思います。

【森永委員】

超音波検査を実施する検査技師等には技量が必要であると思いますが、今までも

超音波検査で乳がんが発見されています。マンモグラフィ検査と超音波検査の両方の検査を受けることは、患者の負担感が大きく、受診率が低下する可能性があると考えています。

【オブザーバー 丹羽医師】

超音波検査は、乳がんの発見につながる反面、見逃されている可能性もあると思います。がんによる死亡率を下げる科学的根拠がある検査はマンモグラフィ検査です。市が実施する乳がん検診は、国の指針で定められているように40歳以上の人が2年に1回マンモグラフィ検査を受診することが重要です。たとえば、30歳代の人にマンモグラフィ検査は勧められません。40歳以上の方には、マンモグラフィ検査による検診が必要であることを周知することが大切であると考えます。

【隈井会長】

2年に1回マンモグラフィ検査を行い、その間に超音波検査を行うという方法はがん発見率の向上や早期発見に繋がりますか。

【オブザーバー 丹羽医師】

がんの発見率は、がん検診を実施する施設における検査技師の技量や使用機器の精度等によるため、単に超音波検査を2年に1回のマンモグラフィ検査の間に実施してもがん発見率が向上するとは言い難いと思います。

【伊藤委員】

市の乳がん検診としてマンモグラフィ検査と超音波検査を両方を実施すると、受診者は、自分が受診しやすい方法を選択してしまう可能性があります。国の対策型検診を中心に市の乳がん検診を構築していく必要があると思います。

【小川委員】

市の乳がん検診も、国が示す対策型検診と同様の内容とし、40歳以上の方は、マンモグラフィ検査を2年に1回行うこととする方がよいと思います。超音波検査を実施するのであればどのように実施するとよいか、検討する必要があると思います。

【和田委員】

市は、乳がん検診として対策型検診であるマンモグラフィ検査を実施し、対策型検診ではない超音波検査を組み込む方向で考えていくべきだと思います。

【隈井会長】

先生方の意見より市の乳がん検診は、対策型検診であるマンモグラフィ検査を実施するものとし、超音波検査についても上手く取り入れる方向がよいと思います。詳細については、今後、議論を重ねていきたいと思っています。

他に御意見はないようですので、議題(1)についてはこれで終わります。

議題(2) 令和7年度乳がん検診実施状況調査の結果について

【隈井会長】

次に、議題(2)令和7年度乳がん検診実施状況の結果について、事務局から説明を

お願いします。

【事務局 山中主査】

資料 4-1 に基づき説明

【隈井会長】

春日井市の乳がん検診の実施状況はどのような印象がありますか。

【オブザーバー 丹羽医師】

調査は、乳がん検診の実施状況の全体を把握するために大切であると考えます。超音波検査については、装置の基準も重要ですが、マンモグラフィ検査以上に撮影の精度に差が出やすいと思います。また、比較読影を行うためには、画像をデジタル画像で保存することが必要だと思います。さらに、日本乳がん検診精度管理中央機構主催又は共催する講習会に画像を持参すると、読影に関する助言をもらうことができるため、講習会に参加していただきたいと思います。検査技師が講習会に参加をすることも大切ですが、判定する医師も、医師向けの講習会に参加することが望ましいです。

【事務局 児島課長】

乳がん検診の装置を把握することは大切だと思います。今回の調査では乳がん検診の装置の販売時期は把握しましたが、画像の保管方法等の把握はできていません。講習会の受講状況も医療機関ごと差があることがわかり、今回の調査では、現状を把握できたと思います。

【隈井会長】

日本乳がん検診精度管理中央機構の超音波検査の講習会を受講しましたが、全員にこの講習会を受講してもらうのは難しいと思います。

胃がん検診の内視鏡検査では読影委員会が二次読影として、画像評価を行っています。超音波検査も、読影委員会を設置し、画像評価を実施することも将来的に考えていく必要があると思います。

【小川委員】

乳がん検診に携わる人が、画像評価を行う必要があると認識することが大切だと思います。

【隈井会長】

画像評価も含め、今後も精度管理に何が必要かを考えていくべきだと思います。他に御意見はないようですので、議題(2)についてはこれで終わります。

議題(3) 乳がん検診実施基準の策定に関する方向性（素案）について

【事務局 川口課長補佐】

資料 5 に基づき説明

【隈井会長】

議題(3)について、事務局から説明がありましたが、何か御意見やご質問等がございますか。

【オブザーバー 丹羽医師】

マンモグラフィ検査の検討課題として、読影医師、実施者及び撮影する装置だけでなく、撮影された画像も把握することが大切です。マンモグラフィ検査には装置の品質管理や撮影した画像を審査する施設画像評価があります。市が行う乳がん検診において、マンモグラフィ検査を実施できる医療機関の認定は、施設画像評価を行うことも基準を設け、精度管理をしていくことを考えていますか。

【事務局 児島課長】

施設画像評価として、撮影された画像も含めて、精度管理を検討していきたいと考えています。

【隈井会長】

ありがとうございます。

他に御意見はないようですので、議題(3)についてはこれで終わります。

今回の本日の議題がすべて終了したため、事務局にお返しします。

【事務局 川口課長補佐】

今回の会議資料は、事務局から乳がん検診運営会議委員の皆様には、乳がん検診の実施基準等についてのご意見を事前にお聞きし、まとめたものを提示したいと考えています。

これをもって乳がん検診検討会議を終了いたします。ご協力ありがとうございました。

上記のとおり、令和7年度第1回乳がん検診運営会議の議事の経過及び結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及び会長が指名する委員1名が署名する。

令和 7年 8月 5日

会長 隈井 知之

署名人 和田 映子